

波郷記念館だより

第二十六号

*石田波郷記念館 再オープン!

平成二十五年九月一日から始まった一年間の改修工事期間を経て、砂町文化センター内、石田波郷記念館が再オープンしました。

昭和二十一年から約十二年間、ここ江東区砂町に居を構え、戦後、力強く生きていく人々の姿を多くの句に詠み、発表した石田波郷を顕彰するために開設したこの記念館。ご遺族、縁の方々から寄贈された貴重な資料を所蔵・公開し、毎年、全国各地から多くのお客様にお越しいただいています。

現在、再オープンを記念し、初公開となる資料の展示をおこなっています。

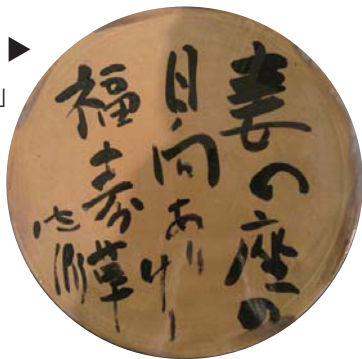


▲① 波郷直筆の節分枰

「豆撒や水仙にはた八方に」
「昭和三十六年節分わが四十八の年男として」

発行日
平成 27 年 1 月 15 日
発行元
江東区砂町文化センター
〒136-0073
東京都江東区北砂 5-1-7
電話：03(3640)1751

初公開資料は、波郷直筆の節分枰(写真①)や陶器(写真②)、『酒中花』直筆原稿(写真③)、そして妻・あき子の詠んだ句(短冊)などです。さらに、読売新聞で連載中の『波郷再訪』と『江東歳時記』の特集コーナーなども新たに設けました。また、季節に合わせた展示替えも随時行っていきます。皆様のご来場をお待ちしています。



◀③『酒中花』直筆原稿

②波郷直筆の陶器(皿)

「妻の座の日向ありけり福寿草」



Special 企画

読売新聞連載『波郷再訪』記者

多可政史氏インタビュー

波郷が執筆・連載をしていた『江東歳時記』の舞台を再び訪れ、取材をする『波郷再訪』(現在読売新聞江東版にて連載中)の担当記者・多可政史氏にインタビューを行い、取材にまつわるエピソードや、そこから見える俳人・石田波郷について、「記者からの視点」で答えていただきます。

Q1. これまでの取材を通して、多可さんの持った波郷への印象とは？

波郷の『江東歳時記』は戦後復興期の下町を俳句という表現手法で描いた優れた仕事です。亀戸天神などの名所から町工場、ボディビルディングジムまで、取り上げた舞台も多岐に渡ります。伝統的な風習と新しい生活が混在する戦後の下町が、波郷にとって俳句創作の上で刺激的な場所だったことは想像に難くありません。これら多彩な風景を十七字で切り取る挑戦的な姿勢から、激動の時代の優れた記録者であるという印象を受けました。

Q2. これまでの『波郷再訪』の取材(江東区内)で、一番印象に残った場所はどこでしょうか。

波郷がガラス工場を紹介した猿江地区です。そのガラス工場はもう閉鎖され、跡地は駐車場になっていましたが、代わり近くでは、十三年前に操業を始めたという新しいガラス工場ができていました。実際にガラス制作の現場も見学させていただきましたが、かつてガラスで栄えた街で、今もガラス窯の火を消さず奮闘する職人さんの姿が印象に残っています。

Q3. もし、波郷に同行するとしたら、どのような取材をしてみたいですか？

『江東歳時記』の舞台の一つに、八十メートル以上の高さを誇った東京電力千住火力発電の通称「お化け煙突」(足立区千住)がありました。五〇年前の一九六四年に取り壊されたお化け煙突の代わりに、今では東京スカイツリーが下町のランドマークになっています。波郷に同行取材するという想像を膨らませてみましたが、当時よりは今の下町を一緒に歩き、スカイツリーの威容からどんな俳句が生まみ出せそうか、尋ねてみたいと思います。

Q4. 波郷の鋭い人間観察力について、記者と俳人の目、取材力の違いや凄いと聞かれるところ、また、共通点はどこでしょうか。

波郷が自らの俳句観を表した言葉に「打坐即刻」というものがあります。打坐は「座る」、即刻は「その時、瞬間」という意味から、時代の流れを冷静に見据え、その瞬間を切り取るのが神髄という意味と個人的に解釈しています。ニュースを扱う記者も事件・事故から話題の人まで様々な取材を行います。どのようなテーマの取材でも、時代を切り取る「瞬間」を大事にしており、そういう点では共通する姿勢があるのかなと思います。

今、こうして波郷の足跡をたどるといふ機会に恵まれていますので、「昭和の俳聖」の功績を紹介しつつ、現代の下町のありのままの姿を紹介する記事を多くの読者に届けたいと考えています。

大西みつぐ(写真家)プロフィール

1952年深川高橋生まれ。1985年荒川河口を舞台にした「河口の町」で第22回平凡社太陽賞、1993年「遠い夏」ほかにより第18回木村伊兵衛写真賞。同年江戸川区文化奨励賞。写真集・著書に「wonderland」、「下町純情カメラ」、「東京手帖」ほか。個展企画展多数。東京都写真美術館、フランス国立図書館ほかに作品が収蔵されている。写真家としての活動のほか、「すみだ写真博覧会」、「浦安写真横丁」、「深川フォトセッション」など地域と写真を考えるイベントなども手がけてきた。

日本写真家協会会員、ニッコールクラブ顧問、大阪芸術大学客員教授。かわら版「深川福々」にて「深川・緑の叙景」を連載中。また、第1回監督作品「小名木川物語」が2015年公開予定。



▲モノクロからカラーまで、様々な「まちの息づかい」を展示

十一月十六日(日)～三十日(日)、下町の風景を情感豊かに撮り続けている写真家・大西みつぐさんの写真展を開催しました。

砂町文化センターでの展示は、平成二十二年の企画展『まなざしの記憶―波郷の愛した下町』以来。

今回はその第二弾として、懐かしいモノクロ写真のほか、現在の風景を写したもので、私たちの普段の生活を切り取った「ある日、ある時」を、多くのお客様にご覧いただきました。

●大西みつぐ写真展 まちの息づかい―江東、砂町、ある日、ある時―

ウインターフェスティバル

●こども俳句塾



十二月六日(土)に開催されたウインターフェスティバルにて、小学生・中学生を対象とした「こども俳句塾」を開催しました。俳句結社『鶴』主宰の鈴木しげを先生を講師に迎え、俳句についての分かりやすいお話と、写真付き季語カードを使った季語当てクイズを行った後、砂町文化センターの敷地内を散策しながら、瑞々しい感性のある句をたくさん詠みました。

詠まれた句は、講師より講評を受け、終了となりました。

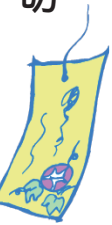
▲吟行することもたち



▲真剣な様子で聞き入るこどもたち

分からない言葉は、鈴木しげを先生、お父さん、お母さんに聞きながら…

応募×切



●はこべら俳句大会

今回、十四回目を迎えた

石田波郷記念「はこべら」俳句大会。今年は三百八十件もの投句をいただきました。

ご応募いただいた皆様、ありがとうございました。

入選句の発表は、平成二十七年二月中旬までに、入賞者へ直接ご連絡します。

三月に行われる授賞式はどなたでもご参加いただけます。ぜひお越しください。

●はこべら俳句大会 授賞式日程

授賞式

平成二十七年三月八日

(日)午後二時～

会場

江東区砂町文化センター

三階研修室

賞

石田波郷記念

「はこべら」賞 一名

石田波郷記念館賞 一名

各選者による特選 三句

入選 十句

砂町文化センターニュース

平成 27 年 1 月 15 日発行
江東区砂町文化センター
江東区北砂 5-1-7
03(3640)1751
<http://www.kcf.or.jp>

砂町文化センターリニューアルオープン記念事業

新規講座受講生募集

夏目漱石 作品とその世界 ～『こころ』・写生文～

講師：元東京都近代文学博物館学芸員 神谷 早苗

夏目漱石の代表作『こころ』の発表 100 年を記念し、作品の魅力や漱石の人物像などについて解説します。漱石の友人には、明治時代を代表する俳人正岡子規がいます。俳句の革新を成し遂げた子規が提唱し広げた写生文やそれを受けた漱石、永井荷風、瀧井孝作といった作家についても触れます。



画像提供：国立国会図書館

- 【日程】 平成 27 年 2 月 3 日～2 月 24 日
- 【曜日】 毎週火曜日
- 【時間】 13:30～15:00
- 【回数】 全 4 回
- 【定員】 20 名
- 【受講料・教材費】 5,200 円
- 【その他】 『こころ』（岩波文庫版）をご用意ください。
※岩波文庫版以外でも構いませんが、講座は岩波文庫版に基づいた解説となります
- 【受付】 砂町文化センター電話または窓口で

無料講演会

1/10～先着順で受付開始

NHK主催展覧会関連文化講演会 ホイッスラー展

講師：横浜美術館主任学芸員 内山 淳子



《白のシンフォニー No. 3》1865-67 年、バーバー美術館（バーミンガム大学附属）
©The Barber Institute of Fine Arts, University of Birmingham

ジャポニズムの巨匠ジェームズ・マクニール・ホイッスラーの展覧会「ホイッスラー展」が横浜美術館で開催中です。

本展は、初期から晩年にいたるまでの油彩、水彩、版画など約 130 点をアメリカ、イギリス、フランスなどから集め、ホイッスラーを本格的に日本に紹介する初めての試みとなります。

これに併せて行われる今回の文化講演会では、「ホイッスラー展」の見どころをご紹介しますとともに、作品の解説をします。

※当日の参加者全員に展覧会招待券（お一人 1 枚）をプレゼントします。

- 【日程】 平成 27 年 2 月 6 日（金）
- 【時間】 19:00 開演
- 【定員】 400 名
- 【入場料】 無料
- 【受付】 平成 27 年 1 月 10 日（土）午前 9:00 から
砂町文化センター電話または窓口で
（先着順）

砂町文化センター 施設のご案内

事務室

砂町文化センターの事務室を、再オープンに際し一階に移設しました。それに伴い授乳室、コピー・印刷機、自動販売機も一階に移設しています。以前からのサービス内容に変更はございません。ぜひご利用ください。



開放的な事務室

イベント報告

ウィンター フェスティバル

砂町文化センターがリニューアルされて、初めてのウィンターフェスティバルでした。

ウィンターフェスティバルは、砂町文化センター全館を会場として行う、冬の館まつりです。

当日は天候にも恵まれ、多くの方が来館されました。館内外で模擬店をはじめ、たくさんの体験教室を行い、バザーや一坪ショップも大変好評でした。

開催にあたり、ご協力をいただきました関係者の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。



砂町文化亭 柳家山三治一門会

平成27年2月10日(火)

ところ：江東区砂町文化センター3階研修室

チケット：全席指定

一般	3,800円
友の会	3,500円
シニア(60歳以上)	3,600円

当日各200円増
※6歳からご入場できます
※割引の併用はできません

好評発売中！
残席わずか！

ご予約・お問合せ

電話：03-3640-1751

江東区砂町文化センター 休館日 第1・3月曜日 ※祝日は開館



柳家山三治

地域コラム 交差点「小名木川駅前」

大型ショッピングセンターやマンションが立ち並ぶ北砂2丁目は、近年めざましい人口増加を遂げました。新たに砂町地区に越してきた方の中には、明治通りにある「小名木川駅前」の道路標識を見て不思議に思った人もいるのではないのでしょうか。

砂町銀座商店街を西に抜け、明治通りを北に進むと交差点に「小名木川駅前」の道路標識があります。現在、付近に駅らしいものは見当たりませんが、かつてこの地には水陸連絡貨物専用駅である小名木川駅があったのです。

同駅は、江東地区の工業地帯の輸送需要の増加に対応するために昭和4年3月20日に開業しました。当初の貨物取扱量は50万トン規模でしたが、豊洲ふ頭が完成した昭和30年には146万トンを記録、2年後の昭和32年には200万トンを超えました。

砂町で暮らしていた石田波郷は、昭和32年4月23日付の読売新聞連載の江東歳時記の中に、発展していく小名木川駅の様子を次のように記しています。

「私は毎朝、小名木川駅の貨車の入れ換えや突放のひびきで目をさます。戦後砂町に移って11年間そうである。もっとも初めの4、5年は貨車の動きも今ほどではなかった。」

取材で訪れた駅事務所2階の駅長室から小名木川駅を眺め、句に残しました。

小名木川駅 春の上潮 曇るなり

平成に入り貨物の取扱量が減少したことにより平成12年に廃駅となり、跡地の再開発で付近の景観は大きく変わりました。現在の小名木川駅跡地を波郷が見たら、どんな俳句を詠むことでしょうか…。

参考

「小名木川の歴史」北砂2丁目公園の設置プレート『江東区史』

読売新聞掲載記事「波郷再訪」(2013年3月19日掲載)